



今月の大植びと

渡辺 賢也さん

(31歳・大植町社会福祉協議会)

ボランティアセンターを担当し、町内外のボランティア団体の受け入れやマッチングを担っている渡辺さん。ボランティアを通じて町の人にも助け合う意識を持ってもらいたいと話します。

支援で来てくれた方々に多くを学びました

現在もボランティア活動に来て下さる方は多いですか？

渡辺さん(以下渡) 震災直後に比べると減ってきていますが、未だに毎週のように町外からボランティアの人が来てくれています。もう少しで述べ8万人を数えるほどです。現在の仕事を通して思うこと



町内ボランティア団体による追悼イベント 3.11 集い〜灯火〜



は何ですか？

渡 元々は介護の専門学校で学んだので、震災後、ボランティアセンターを立ち上げた時には、何もわかりませんでした。ですが、支援で来て下さった他の社協さんの背中を見て、色々学ばせてもらいました。

震災後は大植に残りたくない気持ちも少しあって、ボランティアの人に愚痴を聞いてもらいました。そうしたら、「お前がいるおかげで自分たちが手伝いに来れる。受け入れてくれる人がいなきゃだめだ」と言われたのを覚えています。

ボランティアを通じて助け合いや防災の意識を

今は大きなやりがいを感じているのが伝わってきます。**渡** はい。知らない町のた

めに、一生懸命頑張ってくれ

る人達を見ているうちに、自分たち町民がやらなければ、と思うようになりました。今は、この仕事を通じて、ボランティアや助け合う事への意識醸成ができないかと取り組んでいます。今では台風被害にあつた地域などへ町から支援に行っていますが、恩返し

のつもりで参加する人も多いですし、大げさな活動でなくても、近所の雪かきなど身近な助け合いから、防災や協働の意識につながってもらえたらと考えています。

渡 あとは震災直後に来て下さって、がれきの山しか見えない人達に、今の町を見てほしいです。そして、帰ってから復興の様子を多くの人に伝えてほしいと思います。



3月号 **田中 宏美さん**
4月号 **渡辺 賢也さん**

前号と今号の大植びとが対談するコーナーです。様々な分野で活躍する大植びとの皆さんが、誌面の上で出会います。「たし算」ではなく、「かけ算」の絆が、また新たな大植を創っていきます。

渡辺さん(以下渡)

実は、元々保育士になったんです。保育園で節分の鬼をしたこともあり

田中さん(以下田) 本当ですか？

渡 ピアノがひけないのであきらめました(笑)。

田 介護分野が専門だと思っんですけど、この子育て支援センターは、お母さん達が子育ての悩みを共有する場所にもなっています。介護をしている人にも、そういう場所が必要じゃないですか？

渡 介護、特に認知症などは、周りの人に言いづらいうということも多いので難しいですが、そういう環境があるとなぐく助かると思います。認知症カフェなど、相談できる場所づくりにも取り組んでいます。

田 頼れる環境を作れるかどうか、難しいですよ。子育て支援も、社協さんのサロン活動のように、出張してやれると

もつと来やすいと思っんです。**渡** ノウハウの共有はできると

思いますし、施設に保育園の子が来たこともあるので、お年寄り小さい子が一緒にいる場所づくりもいいかもしれませんね。**田** 核家族の子も多いので、子どもにとっても良い体験になります。きつと！

